

令和6年12月5日
(2024年)

保護者のみなさまへ

吹田市立藤白台小学校
校長 中田 美紀

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語科と算数科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語

《概要》

- ・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことともに知識・技能、思考力・判断力・表現力は全国値や大阪府を上回っている。
- ・すべての問題において、無回答があり、特に書くことは全国値と同じ程度である。

《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

○文の意味に沿って正しく漢字を使うことや文中での主語述語の関係を正しく捉えるなど全国値を上回る。

情報の扱い方に関する事項

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことが全国値を上回っている。

話すこと・聞くこと

○資料を活用し、目的や意図に応じて材料を分類・関係づけて伝えたいことを整理・検討することは全国値を上回っている。

△目的や意図に応じ、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を選択する項目は、全国値よりも無回答率が高い。

書くこと

○目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど自分の考えが伝わるように書きあらわすことが全国値よりやや上回る。

○集めた材料を分類・関係づけて明確に伝えることが、全国値よりもやや上回っている。

△しかし、条件を全部満たして書くことは全国も本校も正答率は低い。

読むこと

○登場人物の心情や相互関係を描写を基に捉えることが全国値よりも上回っている。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果をとらえたりすることが全国値よりもやや上回っている。

△しかし、心に残ったところとその理由をまとめて書くことの無回答率は全国値とともに高い。

《今後の指導改善点》

- 自分の考えを記述していても必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られた。
 - ・授業の中では言葉を適切に用いたり提示されている情報の読み取りや活用の仕方について考えたりする学習活動を行います。また、示された文章や資料には、様々な視点があることを理解し、活用することで自分の考えを広げたりまとめたりすることの機会を増やしていきます。
 - ・国語科に限らず、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を取り入れながら、互いの立場や考えを尊重し、伝えたり質問したりする力をさらに育てていきます。
 - ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書く機会を増やし、自分の考えが伝わるように書く力を培っていきます。

●算数

《概要》

- ・平均正答率が、全ての領域において全国・大阪府値を上回っており、これまでの本校の取り組みの成果が出ている。
- ・「選択式」「短答式」「記述式」といった回答形式に関わらず、正答率は、全国値を上回っている。
- ・「記述式」が全国値と比較して正答率が高かった。しかし、無回答率も全国値と同じように高い。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- 四則計算の立式・計算の仕方を理解し、与えられた式の計算は全国値を上回っている。

図形

- 直方体や円柱、球、角柱の性質や構成の仕方について基本的な立体の性質については、全国値を上回っておりおおむね理解できている。
- △球の直径の長さや立方体の一片の長さの関係を捉えて立方体の体積を求める式の正答率は低い。また、無回答率も高い。

変化と関係

- 百分率や割合に関する事項は概ね理解できている。
- △道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断して理由を言葉や数を用いて記述する正答率は全国値と同様に低い。速さの意味について理解しているかの無回答率も全国値と同様に高い。

データの活用

- グラフの読み取りなど、データの活用領域に関する事項は理解できている。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはめることを言葉と数を用いて記述することは全国と同様に正答率は低い。無回答率も同様に高い。

《今後の指導改善点》

- ・算数の授業ではこれまでと同様に、疑問や課題をクラス全体で共有し、一人一人の「考えたい」という思いを引き出していきます。課題に対する多様な考え方を大切にして子供たちが「伝えたい」という意欲を高めていきます。また、正答にとらわれず自分の考えを述べる機会を増やして無回答率の減少に取り組みます。
- ・考えを引き出しながら、今後も、意欲的に学ぶ学習を進めていきます。また、伝え合い、考える授業の中で、記述力も並行して養います。
- ・算数で付けた力を毎日の生活場面や社会科・理科、総合的な学習でも発揮できるようにしていきます。生活場面の課題を解決するために、データを活用し表現する力を身につけさせ、表・グラフに表す機会を設けます。
- ・各単元では知識・技能を振り返る機会を作り、正確に図形の知識を学ぶとともに、その知識を活用して考える力、伝える力を育てて多角的にとらえる力を育みます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【規範意識・自己有用感等について】

- 「自分にはよいところがある」に当てはまる児童は全国値を上回っている。
- 「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」に当てはまる児童は全国値とほぼ同じである。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれている」に当てはまる児童は全国値とほぼ同じである。
- △「将来の夢や目標を持っている」に当てはまる児童は全国値をやや下回っている。
- △「人が困っているときは、進んで助けていますか」に当てはまると答えた児童は全国値をやや下回っている。「当てはまらない」と答えている児童は全国値よりも高い。
- △「人の役に立つ人間になりたい」に当てはまる児童は全国値をやや下回っている。
- △「いじめは、どんな理由があってもいけない」に当てはまる児童は全国値より低い。むしろ「どちらかという」と当てはまる児童は全国値を上回っている。

・日々の学習活動や委員会活動や係り・当番活動において、様々な課題にチャレンジする機会を設定し、児童がよくできていることを取り上げ、他の児童に広めてきた成果であると感じています。今後も子供たちが課題に自分から取り組みやり遂げていけるようにしながら、自己有用感を感じさせる機会を充実させます。

・「いじめはどんな理由があってもいけない」の項目で「当てはまる」ではなく「どちらかという」と当てはまるを選んだ児童が多かったことが少し気になります。「いじめについては、重大な人権侵害である」ということを認識し、担任をはじめ、教職員全体で子供たちを見守り、いじめを絶対に許さない学校風土をつくっていきます。

・他の項目でも「どちらかという」と当てはまるを選ぶ児童が多く、子供に自信を持たせられる教育活動をさらに推進していきます。

・「人の役に立つことや友達関係に満足している」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」項目が全国値をやや下回っています。友達と過ごす楽しさ、トラブルを乗り越え友情を深める経験、様々な視点で考える面白さなど集団で過ごす良さと意義を感じさせ、円満な人間関係を築ける機会を充実させます。

【基本的な生活習慣等について】

- 「朝食をとる」「同じ時刻に就寝・起床している」に当てはまる児童は全国値を上回っている。
- 「一日あたりのテレビや携帯のゲームの時間」は全国値より下回っている。
- △「授業以外で一日当たり PC・タブレット等 ICT 機器を勉強で使っている時間」は全国値より下回っている。

・ご家庭の協力のおかげで、朝ご飯を食べている割合は今年度も高くなっています。日々、子供たちが元気に登校して活動できるようにご支援くださり本当にありがとうございます。学校は、保健だよりや給食だより等も活用しながら、早寝早起き・朝ごはんなど、健康的な生活の大切さを今後も伝えていきます。ご家庭におきましても学校の配付物等を活用していただきながら、子供たちが元気に活動できる環境づくりに引き続きご協力をお願いします。

・テレビや携帯でのゲーム時間等も家庭でのルールに沿って進めていただいております。このことも規則正しい生活習慣の確立の基になっています。ありがとうございます。

・PC、タブレット等を使った家庭学習は、学年の発達段階を考慮し、学習進度に合わせながら適宜取り入れていくよう進めてまいります。学校では、授業の中で学習ツールの一つと位置付けて活用を行ってきました。デジタルシティズンシップ教育の取り組みも4年目になり、子供たちが自分の学び方にあった使い方ができるようになってきた手ごたえを感じます。タブレットの良さと問題点の両方を理解させ、良き使い手となるよう児童の育成に継続して取り組んでいきます。今後もタブレットのルールを守って使用し、さらに有効な活用仕方を考えながら指導を継続していきます。

【地域に関わる活動の状況等について】

△「住んでいる地域をより良くするために何かしたい」「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童は全国値よりもやや下回っている。

○しかし、8割近くの児童が地域でのかかわりを前向きに考えている。

・コロナ禍の後、地域行事も以前のように復活していない中、6年生が地域において活動したい気持ちがあることはうれしい結果でした。中でも、地域や社会をよくしたいと思う子供たちが育っていることは、学校と一緒に地域の方々を温かく子供たちを見守っていただいたおかげであると感じます。これからも、地域行事などのお知らせの文書を配付する際には、行事の内容も知らせるなどして、子供たちが自分たちの地域に関心を持てるようにしていきます。

・放課後や週末の過ごし方では、学習塾、習い事やスポーツと回答した答えが半数前後見られました。地域行事と習い事等の予定が重なることで参加したくてもできない状況であり、参加機会が少なくなっていることの一因とも考えられます。

【学習習慣・教科の学習について】

○「学校の授業時間以外に一日当たり3時間以上勉強している」児童の割合は平日、休日とも全国値を上回っている。

○「家に500冊以上本がある」「新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は全国値よりも上回っている。

○「国語、算数、理科、英語の勉強は大切」と回答した児童はどれも全国値とほぼ同じである。

△「学校の授業時間以外の勉強時間は平日・休日共に30分より少ない」割合は全国値に等しい。

・学力の基本は日々の学習の積み重ねです。しかし、学習習慣に差がある結果として表れていると考察します。家庭学習の基本である宿題をはじめとして、家庭学習の推進を進め、計画的に学習に取り組む態度を培っていきます。ご家庭におきましても学校の配付物などを活用していただきながら、お子さまへのお声かけを引き続き、お願いします。

・多くの児童に読書の習慣がついていることがわかりました。今後も、読書の習慣をより定着させるためにも読書支援員との連携を図りながら、学校内で本や活字に触れる機会を十分に確保します。

・学習について、肯定的な回答が多くあったことは、子供たちが主体的、意欲的に学ぶために授業研究を続けてきた本校にとって、成果を感じる結果であります。今後もより一層の授業改善に取り組み、国語や算数、理科、英語の学習が大切であるという認識と学ぶ楽しさの両方を育てていきたいと考えます。そして将来に役立つ実感が伴うように、日常生活と関わる課題を設定して、生活の中で事象を取り上げながら、学習を進めてまいります。

【主体的・対話的で深い学びに対する取組状況】

○「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章を組み立てて工夫して発表した」「課題解決に向けて自分で考え取り組んだ」児童は、全国値を上回っている。

○「学習し内容で分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」で肯定的な回答は全国値とほぼ同じであった。

○「学級生活をより良くするために学級会で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めている」など、対話的活動に進んで参加する肯定的な回答は全国値よりもやや上回っている。

○「総合的な時間での課題を立て情報を集めて整理し発表する学習活動」や「道徳の授業で考えを深めたり学級で話し合ったりする活動に取り組んでいる」項目では肯定的な回答は全国値よりも上回っている。

○「5年生までに受けた授業は、自分に合った考え方、教材、学習時間などになっていた」について肯定的な回答は全国値とほぼ同じである。

・主体的・対話的で深い学びの視点を持つ授業を進めてきましたが、今年度も成果が出ている結果でした。本校の研究テーマである「対話の中で考えを深められる子供を育てる」という目標のもと、他者と考えを共有し、議論していく過程を大切に授業づくりを今後も進めていきます。

・総合的な学習では、子供たちの興味関心に基づいて、各教科や道徳、特別活動の時間とも関連付けながら問題解決や探究活動に取り組む力をさらに培っていきます。

・「協働的な学び」と「個別最適な学び」の両方を取り入れた授業は今後も継続してまいります。両方をうまく組み合わせながら今後も授業改善を行うとともに、知識技能定着にとどまらず、子供たちの挑戦心・自己有能感を高めていく教育活動に今後も全職員で取り組んでまいります。